

<b>1</b>	<b>地域づくり団体全国研修交流会</b>	<b>2</b>
	第27回地域づくり団体全国研修交流会佐賀大会レポート	
<b>2</b>	<b>石川地域づくり表彰 受賞団体・個人の取り組み</b>	<b>3</b>
	歴町センター大聖寺	3
	小立野地区まちづくり協議会／能登半島おらっちゃんの里山里海	4
	小木地区壮青年連合会／数馬嘉雄氏	5
<b>3</b>	<b>いしかわ地域づくり塾の報告</b>	<b>6</b>
	地域づくりを担う社会起業家 養成塾	6
	町家 de 町おこし	7
	地域づくりは人づくり	7
<b>4</b>	<b>大学と地域が連携する地域づくり</b>	<b>7</b>
	大学・地域連携研究プロジェクト	
<b>5</b>	<b>地域づくり活動の紹介</b>	<b>8</b>
	石川ツーリズム研究会	
<b>6</b>	<b>震災復興地域づくり総合支援事業 コミュニティビジネス・チャレンジ支援</b>	<b>9</b>
	能登ふれあいガーデン委員会／笑楽路屋	
<b>7</b>	<b>奥能登ウェルカムプロジェクトの 取り組み</b>	<b>10</b>
	「全国井サミットいしかわ 2010 D-6」の開催	
<b>8</b>	<b>NEWS &amp; INFORMATION</b>	<b>12</b>
	イベント／募集	

# いしかわ地域づくり 往来

www.pref.ishikawa.jp/  
shinkou/dukurikyou/

発行日／平成22年3月31日

発行／石川地域づくり協会

発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 表 正人

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328

# vol.7

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



地域おこしご当地井の連携・協力に関する協定の締結 (1/23「全国井サミットいしかわ 2010 D-6」にて)

\*記事及び写真の無断転載はお断りします。

# 1

## 地域づくり団体全国研修交流会

平成 22 年 2 月 5 日・6 日、第 27 回地域づくり団体全国研修交流会が佐賀県各地で開催され、全国から地域づくりに取り組む方々が集まり交流を深めました。

石川地域づくり協会コーディネーターの赤須治郎さんが見た研修交流会を紹介していただきます。

## 第 27 回地域づくり団体全国研修交流会佐賀大会レポート

### もやもやのままのもやい

地域づくりコーディネーター 赤須治郎

前夜祭から参加した。地域づくり仲間と再会し、人脈をメンテナンスした。沖縄を介して宮崎、熊本の方とも知り合えた。鹿児島、宮崎、熊本の南九州地域づくり連合の動きを察知した。H23 年の熊本大会が楽しみである。ちなみに前夜祭は第 21 回能登大会が最初で、それ以来、すっかり定着した。前夜祭発案者のひとりとしては、懇親会よりも意見交換の場であって欲しいと願うが、参加者全員で和やかな雰囲気醸し出し、それも良いと考えることにした。古川佐賀県知事が「地域（ふるさと）への誓い」を謳いあげ、出席者を感動させた。内容は住民の主体的な地域社会参加を呼びかけたものである。WEB で当日の動画を見ることができる。

翌日は全体会の前に我々が能登乃國ゆするぎ塾の大湯章吉氏がパネリストを務めるパネルディスカッションに出席し、大湯さんの活動報告（地域づくり団

体、大学、企業、国際組織などとの協働事業）に拍手を送った。石川県にも来ていただいたことがある鹿児島「やねだん」の公民館長豊重哲郎氏のお話は迫力があり、心を揺さぶられた。いま各地で NPO と町会などの地縁団体との協働が試行されているが、その必要性を痛感させられた。

全体会はセレモニー色が強く、情報性に乏しかった。今大会のキーワードである「もやい」の説明がなかったのも残念であった。流行の協働という翻訳語を生硬すぎると考えたのだろうか。もやいという大和言葉を敢えて持ち出した理由を聞きたかった。

嬉野分科会ではバリアフリーツアーという活動をしているご夫妻に出会い、嬉野温泉の旅館では客室リフォームを市との協働で進めていることを知った。それが予期せぬ、しかし、最大の収穫であった。

前夜祭のお酒。佐賀県原産地呼称管理制度をリサーチするため、全銘柄を試飲した



全体会で披露された伝統芸能「玄蕃一流天衝舞浮立」。雨乞祈願とのこと



前夜祭後の 2 次会。宮崎、熊本、沖縄、鳥取、新潟の人たちと交流



嬉野分科会でバリアフリーツアーの報告をした嶋原夫妻



特別オプションのパネルディスカッションで報告する我々が大湯塾長。今大会の構成や演出に大湯氏の助言が随所に取り入れられているように感じた



嬉野市の塩田地区の歴史的町並みの視察。居蔵家（いぐらや）という独特の町家様式



# 2-a

## 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

住民主体で先進的な地域づくりに取り組んでいる団体・個人を顕彰する「石川地域づくり表彰」。ここでは、平成 21 年度に、団体部門で大賞・優秀賞を受賞した団体と、個人部門で受賞した方の取り組みを紹介します。

### 団体部門 大賞

#### NPO 法人歴町センター大聖寺 (加賀市)

大聖寺の貴重な歴史的遺産が徐々に失われていくことに危機感を感じた住民が集まり、平成 6 年に「大聖寺まちなみ景観整備委員会」を立ち上げ、平成 13 年には「特定非営利活動法人歴町センター大聖寺」を設立しました。旧大聖寺藩内に残る歴史的景観を守り整備することによって、人々に潤いを与え地域の活性化を図るとともに、次世代を担う子供たちが地域に誇りを持つことができるよう、地元住民を中心とした、医師や郷土史家、建築家などのメンバーが、自らが楽しむことを基本に活動しています。

観光ボランティアガイドが常駐する史跡案内所の設置、もてなしトイレ案内処やレンタサイクルの設置、大聖寺藩 2 代藩主・前田利明が建立した鐘楼「時鐘堂」の再建、大聖寺の大切な景観の一つである旧大聖寺川での屋形船運航など、活動を始めて以来継続的に多様な活動を行ってきました。時鐘堂の再建で

は、歴町センターが募金を呼びかけ、民間主導のまちづくりの実践として注目されました。また大聖寺川流し舟を活用して「時代結婚式」を行うなど、アイデアを次々と実行にうつしています。

大聖寺地区では、これまで市民と行政が連携して歴史的景観の保存再生のための活動に取り組んできましたが、その成果はまだ十分とは言えず、地域住民の歴史的資産の保存や景観整備に対する意識の高まりも不足しているのが実態です。今後も引き続き、磨けば光る歴史資産の発見と、市民レベルのまちづくり活動の輪を広げていくことが課題であると考えています。

「住んでよい町、訪れて良い町」をめざし、「やれることを、やれるところから、やれるようにやる」を合言葉に、これからも楽しみながら活動していきたいと思っています。



市民からの寄付金で  
つくり上げた「時鐘堂」。鐘の音も景観を構成する要素



屋形船での川下りは、新たな観光客の増大につながった

### 第一回北信越町並みゼミ大聖寺大会を開催します

地域性や歴史性等で共通点の多い北信越ブロックで、交流と町並み保存や景観まちづくり活動の拡大を目的に開催します。

- 開催日 平成 22 年 5 月 1 日 (土)、2 日 (日)
- 場 所 石川県加賀市大聖寺地区
- お問合せ NPO 法人歴町センター大聖寺  
TEL. 090-1635-4605

## 団体部門 優秀賞

### 小立野地区まちづくり協議会(金沢市)

小立野地区は兼六園の東に連なる小立野台地を中心とした地域です。

当地区の課題の解消に地域の賑わいの必要性が議論され、1981年に「御山まつり」が創設されました。

地域に氏子を持つ5社の宮司がお神輿と共に氏子宅を廻り祈願を行う御山神輿の巡行、地元石引通りの名の起こりとなった金沢城の石垣を造るための大石曳きの再現、この二つの行事をメインにまつりを通して地域の伝統行事の継承、地域のにぎわい創出、地域住民同士の連帯感の醸成を図っています。同時に地域の歴史文化をテーマにした講演会を開催し、地域への愛着心を深め、コミュニティの醸成を図りながら地域の個性を生かしたまちづくりを行っています。

少子高齢化が地域の大きな課題となっているものの、文教地区である特色を生かし「学生の街」ならではの取り組みを通じて、時代に応じたまつりの開催や時代に即応した地域振興を行う事が必要であると考えています。

毎年開催している「御山まつり」での大石曳きの再現



## 団体部門 優秀賞

### 特定非営利活動法人能登半島 おらっちゃんの里山里海(珠洲市)

「おらっちゃん」は金沢大学が平成18年に設立した能登半島・里山里海自然学校の支援を目的として、地元の有志が集まってできた組織で、平成20年にNPO法人化しました。主な活動は金沢大学と協働での能登地域の里山里海保全で、ボランティアを募り休耕地の維持と生物保全の両立を目指した「ビオトープ水田」の創出や、荒廃した里山林を「キノコ山」にするための森林整備などを実施しています。

保全活動にとどまらず、子供たちへ里山里海を伝える環境教育や、ビオトープ水田で作られたお米や整備林でとれるキノコをつかった商品開発、里山整備やキノコ狩りのツーリズム化など、都市農村交流を目指した「コミュニティビジネス」の仕組み作りを行っています。これまで、環境省や農林水産省の委託事業も請け負い、実績を積んできました。

今後も、能登の里山里海の素晴らしさを地域内外に広め、地域の宝として保全、活用していきたいと考えています。

キノコ山で子供たちに里山の大切さを伝える環境教育を実施



## 団体部門 優秀賞

### 小木地区壮青年連合会 (能登町)

「3年船に乗れば家が建つ」は漁業のまち「小木」の最盛期を象徴する言葉です。しかし、200海里問題に流し網の禁止と、立て続けに「小木」は社会情勢の大波を受け、たった30年の間に、漁業は衰退し、閑散としたまちへと変わり果て、余りにも急激なこの変貌は、住民の心に大きな衝撃を与えました。

当会は、かつての活気ある「小木」を少しでも取り戻せればと、住民が心の拠り所としている祭りを活用した交流事業に取り組み、「小木」の魅力を伝え、また一方で、住民の心を癒しつつ、郷土愛の醸成や結束力の強化を図っています。

今回の受賞は、「小木」でちょっとした話題になり、地域が少し明るくなったような気がします。今後については、これまでの交流事業を継続しつつ、将来的に住民の誰もが係われ、地域の文化や資源を活用した「小木」にしかない「オンリーワンの取組み」を一丸となって追求していきたいと考えています。

1年の豊漁を願う「とも旗祭り」で船に取り付ける「とも旗」の製作に大学生を受け入れている。地区の中学生と一緒に作業



## 個人部門

### 数馬嘉雄氏 (能登町)

能登は昔から醸し(発酵)文化の拠点であり、いしり・なれずし・味噌・醤油・干物など発酵食品が豊富でしかも品質が高く安心・安全である。しかし、小規模事業者が多く、その良さを生かしきれていない。数馬氏は造り酒屋の社長、また商工会長として能登を更に魅力ある地域にするため、発酵文化を切り口に能登を発信しようと試みている。他の地域には無く、しかも能登を象徴するモノとして地元特有の素材である「いしり」を選択し全国ブランド化に取り組み、「いしり」のニューヨーク進出も果たした。また、これまで交流の無かった生産者等による意見交換会や研究会、研修会を開催することによって共通認識を持ち、互いに協力し解決策を模索するよう方向付けた。

異業種間交流も積極的に行い、「NPO法人能登ネットワーク」の立ち上げに貢献するなど「能登はモノも醸すがココロも醸す」をキーワードに能登を全国に更には世界に発信している。

米国の食文化財団関係者に「いしり」を紹介



# 3-a いしかわ地域づくり塾の報告

地域づくり活動の担い手育成を目的とする「いしかわ地域づくり塾」。

平成20年度に引き続き、21年度も、地域づくり団体が主体となって塾を企画・実施しました。ここでは、塾の様子などを報告します。

## 地域づくりを担う 社会起業家 養成塾

### ピースバンクいしかわ設立準備会

ピースバンクいしかわ設立準備会では、10月3日に公開ワークショップ「10人の起業家と考える!資金調達のしくみ」(参加者約50名)、3月14日に「NPOバンクの融資審査バーチャル体験講座」「志民の志金を生かすサミット」(各参加者約150名)を開催しました。おもな内容は、石川県で活動する社会起業家の話を聞き、専門家がコメントを加え、参加者も巻き込みながら事業のブラッシュアップを図っていくというものです。

現在「持続的な地域づくり」が大きな課題となっています。そのためには、地域での「仕事おこし」が必要であり、社会のニーズと地域のシーズを的確に捉えた「社会起業家」の存在が不可欠です。今回の講座で、多くの人たちが「社会起業家」としての一步を踏み出すきっかけになればよいと思いますし、今後、ピースバンクいしかわ(2010年5月に準備会から移行予定)が、NPOバンクとして、融資など支援の一翼を担えればと考えています。

3月14日の講座では、起業家4人のプレゼンテーションを聞き、融資審査体験を行った



## 町家 de 町おこし

### 金石の地域づくりを考える懇話会

3月20日、約30人の参加者が、歴史都市第1号に認定された金沢市で、最近脚光を浴びつつある「町家」を利用した当金石町の活動報告から町づくりの手法を学びました。地域の資源を再確認し、住民が誇りに思うことで町家の保全と利用・活用を図る、また活動をしていく上での工夫や発見、運営で上手くいった方法、失敗した事例を同様の活動をしている町づくり団体へ伝えることが今回の目標でした。

地域により各種団体の支援体制は違うと思いますが、金石町の事例を独特ではありますが知って、参考にさせていただきたいと思いました。

活動報告以外では、市全域で活動する金澤町家研究会さんに町家の魅力を語っていただき、第三者の眼で、地域を俯瞰から眺め住民では気づきにくい町の魅力を再確認する大事さが伝わったようです。

アートとのコラボレーションでは地域の産業とアートを思い付きで実現させていく過程なども、製作された作品を通じて実際に見てもらいました。参加者が各地域で生かしていくことを期待します。

金澤町家研究会による町家を使ったイベントについての話題提供



## 地域づくりは人づくり

～中学生と手をつなぐ  
「孫世代のための認知症講座」～

特定非営利活動法人 志ネット・石川

この講座は、中学生に認知症講座を行う講師の育成を目的に実施されました。認知症の理解を基盤にした共助の地域づくりをめざし、将来を担う子どもたちを巻き込みたいという考えからです。講座の中心は、高橋智氏（岩手医科大学神経内科准教授）が寺井中学校2年生に行った授業「認知症ってな～に？」から指導法を学ぶことでした。高橋氏は、孫世代が正しく認知症を理解することが、年齢を重ねても住みやすい社会を築く礎となるという研究実践を行っています。

そのほか、認知症の理解学習と授業の実践学習等を6回にわたり実施してきました。2月28日、「能美まなびフェスタ」の中で、地域づくり塾の報告が行われ、寺井中学校の谷口校長先生から「子どもたちの心が育ち、地域と学校がつながっていくよい取り組み」との話があり、授業を受けた中学生の感想からも、地域づくりへの希望が感じられました。受講生からは、22年度以降、まずは能美市内の中学校で認知症講座を継続的に実施していくこと、また「大丈夫なまち、能美市」への熱い思いも伝えられました。

実践学習「ゲームを取り入れて伝えてみよう！」



県は、大学が地域と連携して実施する地域活力や地域課題解決に係る研究プロジェクトに対して支援しています。

大学・地域連携  
研究プロジェクト

平成21年度に実施した研究プロジェクトのひとつとして、金沢学院大学美術文化学部の馬場先教授が、「身近な環境と子どもたちを考える会」や「こまつ町家情報バンク検討委員会」、小松市等と連携して、金沢市、小松市、加賀市における町家の特徴について研究し、結果をワークショップや公開講座で発表したり、町家を活用したイベント、見学会の実施等を行ってきました。

特に小松市では、これらの研究実践活動の成果として、行政の町家再生事業が具体化したり、取り壊し予定の町家を町家が購入する等、住民の地域への愛着と伝統的町並みの継承意識向上に一役かっています。



町家見学会の様子

この研究プロジェクトは  
平成22年度以降も実施され、  
4月から次の6プロジェクトが展開されます。

- 金沢大学：超高齢社会における3世代同居居住の在り方に関する研究プロジェクト（県内全域）
- 金沢大学：能登半島「里海」の保全・活用による持続可能な地域づくりプロジェクト（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、七尾市）
- 金沢大学：大学生と地元高校生の連携による被災地高齢者見守り支援プロジェクト（輪島市、穴水町）
- 金沢工業大学：重要伝統的建造物群地区のまちづくり実践活性化プロジェクト（輪島市）
- 北陸先端科学技術大学院大学：歴史資源活用による地域貢献型歴史研究プロジェクト（県内全域）
- 金沢星稜大学・星稜女子短期大学：過疎地域の特産品開発による産業創造プロジェクト（金沢市、七尾市等）

# 5

## 地域づくり活動の紹介

県内では、多くの団体が様々な視点から地域づくり活動を行っています。

今回は、今年度新たに石川地域づくり協会に加入した「石川ツーリズム研究会」の紹介です。

### 石川ツーリズム研究会（金沢市）

石川ツーリズム研究会は、平成16年からの3年間石川県が行った、「観光人材育成セミナー」の修了生を中心に、平成19年に結成された団体です。

ツーリズムというと観光のことですが、私たちは、“観光”の持つ可能性を様々な角度から検証し、それらを地域振興や地域課題の解決に役立ててもらうための取り組みを行っています。

これまでの活動の例としては、

- ① 担ぎ手不足により実施が困難になりつつあった能登町のキリコ祭りに、学生交流員を参加させるプログラムを3年にわたり実施
- ② 交通の便が悪いために魅力が紹介されにくい郊外エリア（金沢市大野町）で、送迎付のオプションツアーを実施
- ③ 地域が主役となる着地型観光を推進するためのシンポジウムを開催
- ④ 石川県からの委託により、子供たちに“おもてなし”“観光”について教える「お国自慢・おもてなしハ

ンドブック」を編集し、県内全小学6年生に配布  
⑤ 加賀市立図書館との協働で、小学生に「お国自慢探しプログラム」を実施  
など、積極的に活動しています。

メンバーはいわゆる“観光業”従事者のみならず、全くの異業種など様々であることから、柔軟な考えと活動ができる事が最大の特徴です。今後の活動としては、地域の皆さんとの協働や、人繋ぎ、勉強会などにも力を入れていきたいと考えています。地域の声を重視し、地域が喜べる取り組みのお手伝いができればと思っています。意欲ある皆様と一緒に、楽しい取り組みをしていきたいと思っておりますので、是非お気軽に声をかけてください。

お問合せ

石川ツーリズム研究会（藤橋）

TEL.090-9440-5577

メール yukiko-f@castle-inn.co.jp

着地型観光についてのシンポジウムを開催



北海道の観光マネジメントリーダーとの意見交換。観光による町づくりや地域振興についても議論



# 6

## 震災復興地域づくり総合支援事業 コミュニティビジネス・チャレンジ支援

財団法人能登半島地震復興基金は、地域資源を活用して復興を図る民間団体の取り組みを支援していきます。今回は、2つの取り組みを紹介します。

### 1,000 坪の休耕田を再生し、 体験・交流の場に

#### 能登ふれあいガーデン委員会 (能登町)

3年前、代表の上乗さんを中心に地域の方が主体となり、高齢化などで増えていた山間の休耕田に、地産地消の実践とふれあいの場「ケロンの小さな村」を作りました。ここでは、「つくる人、食べる人、大地」の3者が健康な農業の実現をめざしています。

飲用できるほどきれいな地下水が湧いている恵まれた自然を生かして、収穫した米を自家製粉し、米粉や玄米粉で石窯パンやピザを作ったり、田畑での農作業、川遊びをしたり、訪れる方に様々な体験を提供しているほか、米粉を使った商品の販売や野外レストランの営業により、能登米の消費拡大と地域の活性化に貢献しています。開村後、周辺のすべての休耕田で耕作が再開され、棚田を蘇らせるという波及効果もありました。

資材や技術など地域の方々の連携により、10年計画ですべて手作りで進めており、少しずつ施設も整ってきました。今後は一緒に村をつくっていく仲間となる「メイト」を募集し、地域の方はもちろん、遠方の方も当事者として巻き込み、輪を広げていく考えです。

開村イベントでのピザ焼き体験



### 元気な能登を アピール

#### わらじや 笑楽路屋 (輪島市)

能登半島地震で被害を受け、仮設住宅に入居していた方を含む4人の女性が、平成20年、總持寺周辺の観光案内と特産品の販売をする「<sup>わらじや</sup>笑楽路屋」を開業しました。活気がなくなっていた地域で、全国から訪れる観光客と地域の方の交流の場をつくり、活気と賑わいを創出したいと考えたのが始まりです。

「笑楽路屋」ができたことにより、以前は總持寺だけを訪れることが多かった観光客の回遊性が向上する効果がありました。また、總持寺の修行僧をイメージした「わらじ」や周辺の特産物である山菜「行者にんにく」の漬物など、地域由来の特産品の開発を行うことで、地域資源を活用した地域おこしも期待されています。

震災から3年が経ち、町並みが復旧する中で、震災の様子が見えるパネルを設置して訪れた方に説明し、被害を語り伝える役割も担っています。

今後も、さらなる地域の活性化のため、「門前の顔」として営業を続けます。

特産品のほか、山野草（写真は雪割草）等、地域の方から仕入れて、販売を行っている



# 7-a 奥能登ウェルカムプロジェクトの取り組み

石川県、奥能登2市2町、地域づくり団体、民間事業者等からなる奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会では、「能登井」の取り組みを行っています。今回は、ご当地井による地域おこしを行っている全国の地域を集めて実施した全国井サミットについて紹介します。

## 「全国<sup>どんぶり</sup>井サミットいしかわ2010 D-6」<sup>ディー シックス</sup>の開催

### 完売御礼！大盛況の“井”でつなぐ地域おこしの輪

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会

当協議会において、食をテーマにした「奥能登食彩紀行」プロジェクトの一環として平成19年12月にスタートした「能登井」は、石川県内を中心としたマスコミの反響が非常に大きかったことや、地域イベントへの積極的な出店により、県内では一定の知名度を得ている。しかし、全国的にみればまだまだ知名度は低く、全国へ向けた効果的な情報発信が大きな課題となっている。

そこでプロジェクトチームでは、同じように「井」を使った地域おこしに取り組んでいる他の地域との連携を検討した。その結果、全国各地のご当地井との友好協定の締結や、それらを一堂に集めた井イベントを企画した。開催時期については、各店舗が比較的に出店しやすく食材も豊富な1月とし、開催場所については、県外からのアクセスや屋内開催という条件により金沢市の石川県産業展示館とした。

内容について、イベントが「井」のPRに終始しては本来の地域おこしの目的が薄れてしまうことから、能登の伝統文化や食文化の魅力もあわせてアピールすることとした。具体的には、能登ゆかりの女性芸術家によるトークショーや、能登に伝わる伝統芸能の披露、キリコ祭りの体験などを盛り込み、地域文化

の発信にも力点をおいた。

連携先のご当地井の選定については、以前から事務局側で交流があった地域と、インターネット等の情報からリストアップした地域に対して、直接連絡を取ることから始めた。

最初は、前例のない取り組みということもあり、相手側の反応は鈍かった。そこでプロジェクトチームでは、中でも前向きな反応を示していた地域に対し、10～11月にかけて現地へ直接足を運び、参加を依頼した。相手先の事務局及び参加店舗の方と直接話をしてみると、これまで取り組みを続けてきた中で、同じような悩みや課題を抱えていることで共感し合えた。いずれも取り組みを始めてから数年が経過し、少なからずマンネリ化と停滞感を感じていたのである。その停滞感を打破する起爆剤として、このイベントにかけてみようとして5つの地域のご当地井が正式に参加を表明した。

こうして今回は、能登井を含めて6つの地域のご当地井が参加することとなった。他県からの参加は、千葉県鴨川市の「おらが井<sup>どん</sup>」、神奈川県小田原市の「小田原どん」、和歌山県田辺市の「あがら井<sup>どん</sup>」、愛媛県宇和島市の「どんぶり王国宇和島」、大分県臼杵市・津久見市・佐伯市の「日豊海岸ぶんど<sup>どんぶり</sup>井街道」である。

イベント風景（1/24 石川県産業展示館3号館）



全23店舗のバラエティーに富んだご当地井のメニュー



能登ゆかりの芸術家による「能登の魅力トークショー」



# 7-b 奥能登ウェルカムプロジェクトの取り組み

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会

共通点は、いずれも井を使った地域おこしに取り組んでいること、井のメニューを1つに絞らず地元の食材を使った各店舗オリジナルのものとしていること、数年前にスタートしたこと、などが挙げられる。

イベント初日の1月23日には「第1回 全国地域おこしご当地井会議」を開催し、各ご当地井の関係者が一堂に集まり、意見交換を行った後、連携・協力に関する協定を締結するとともに、「全国井サミットいしかわ2010 D-6」宣言を満場一致で採択した。

そして、1月24日、各地のご当地井を販売するメインイベント当日を迎えた。開催時期が降雪時期と重なっていることから、開催前には悪天候による入り込み客数の落ち込みが懸念されていた。しかし、幸い当日は一日中好天に恵まれ、また、金沢市内を中心としたきめ細かく地道なPR活動が功を奏し、開場前から多くの人々が集まり、開場と同時にご当地井ブースには長蛇の列ができた。ご当地井ブースには、県外のご当地井から各1~2店舗、「能登井」から14店舗、特別参加した白山市の「白山百膳」2店舗とあわせ、合計23店舗が出店した。井のメニューも海鮮や肉類、豆腐などバラエティーに富んだ内容となった。用意した合計約6,000食の井はイベント終了の数時間前に

は全て完売し、来場者数も約7,000人と大盛況であった。残念ながら、売切れにより井を召し上がれなかった方には大変申し訳なく、主催者として今後の大きな反省点としたい。しかしながら、2~3食の井を召し上がった方も数多くおられた。また、ステージや井以外のブースもそれぞれに賑わいを見せていた。

さらに、当日は全国ネットのテレビ局が複数取材に訪れ、その模様がニュース番組などで大きく報道された。中にはイベント数日前から参加店舗へ取材を行ったケースもあり、注目度の高さがうかがわれた。このように、全国へ向けた効果的な情報発信という意味でも、今回の取り組みは非常に大きな成果があったと考えている。

こうした注目を一過性のものに終わらせることなく、さらに全国的に広げていくためには、協定を結んだ6つの地域をはじめ、全国各地でこの「全国井サミット」を順次開催していくことが必要である。既に、第2回は平成22年の秋に「小田原どん」の地元、神奈川県小田原市で開催することが決定している。

今後はさらに参加のご当地井を増やし、他の地域とも連携・協力しながら、全国に「井」旋風を巻き起こしていきたい。

道場六三郎氏による「奥能登ろくさん井」の披露



ご当地井代表者によるパネルディスカッション



大盛況により全てのご当地井が完売



「NEWS & INFORMATION」はあなたの団体のイベント告知や、活動メンバー募集などを掲載するページです。掲載ご希望の団体は事務局までご連絡下さい。

## 平成 22 年度 「いしかわシティカレッジ」 受講生募集

イベント

参加のお問合せ 076-223-1633

「いしかわシティカレッジ」は、県内の大学等の授業科目を、金沢の中心にある「しいのき迎賓館」で開講し、学生はもちろん、社会人の方にも本格的な学問に触れる機会を提供する事業です。「ふるさと学」や「地域とくらしと環境」など、地域づくり活動に取り組む方にも興味をもていただける科目もありますので、詳しくは大学コンソーシアム石川までお問い合わせください。

■ お問合せ 大学コンソーシアム石川事務局  
TEL.076-223-1633 FAX.076-223-1644  
info@ucon-i.jp

## 第 3 期作品募集中! 奥能登音紀行♪

動画での応募ができるようになりました

募集

参加のお問合せ 0768-26-2303

自然の音、祭りの音、生活の中の音など、奥能登の「そこに行きたくなる音”」を募集しています。今期から動画での応募ができるようになりました。

採用作品は、動画共有サイト「YouTube (http://www.youtube.com/OkunotoWP)」を通じて公開します。また、採用された方の中から抽選で5名にデジタルフォトフレームをプレゼントします。

応募方法は「うるかむ奥能登」ホームページ (http://www.okunoto-ishikawa.net/) をご覧ください。

■ 応募締切 第3期 平成22年6月30日  
第4期 平成22年9月30日  
■ お問合せ 奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会事務局  
(奥能登総合事務所内)  
TEL.0768-26-2303

## noto 色スポット 「のとキリシマツツジ オープンガーデン 2010」

イベント

参加のお問合せ 0768-26-2555

江戸時代に能登地方に伝わり、固有の品種が発達してきたとされる「のとキリシマツツジ」。愛好家の手で大切に育てられ、4月下旬～5月中旬、燃えるような深紅色の花で能登半島を彩ります。

今年も開花時期に合わせて個人の庭を公開するオープンガーデンを行います。この機会に、能登を訪れてみませんか。

■ 開催日時 平成22年4月25日(日)～5月16日(日)  
(開花状況により異なります)  
■ 会場 輪島市、珠洲市、穴水町、能登町で  
お庭を公開している個人宅等  
※ 能登空港や道の駅などでチラシを配布しています  
■ お問合せ 能登の旅情報センター(能登空港内)  
TEL.0768-26-2555

## 「いしかわ地域づくり往来」の 印刷を今号で終了します

地域づくりに関する情報紙として「いしかわ地域づくり往来」をみなさんにお届けしてきましたが、今号(vol.7)で、印刷物での配布を終了します。なお、地域づくりに関する講座や助成制度などの幅広い情報を、今後も、メールマガジン・ホームページ上で提供していきます。

メールマガジンの登録は、下記 URL からできます。また、メールアドレスをご連絡いただければ、事務局で登録手続きを行いますので、まだ登録がお済みでない方は、ご登録ください。

メールマガジン登録 URL  
<https://consol.neting.jp/mg/cf/>